

飲水思源

町長 松岡市郎

外国人留学生から学ぶ、ふくし、(福祉)

日本語を学んでいる外国人留学生は、卒業時期になると町内のさまざまな所を訪問してインタビューし発表している。半年間滞在の学生も良く調べ、努力して発表していて大変分かりやすい。あるチームが「福祉『ふ・く・し』とは『ふだんのくらしの しあわせ』」と福祉の頭文字を使って表現した。

普段暮らしていることが実は最高に幸せであることに、失って初めて気づく。胆振東部地震では北海道全域が停電になった。いつもの暮らしは、普段は電気が当たり前の暮らしであって、電気が来ていることの有難さなど真剣に考えている人は少ないようだ。

しかし一旦停電になると何と不由なことか。「幸せ」から「辛さ」と急激な変化に襲われる。

「幸せ」と「辛さ」の漢字は良く似ているが、「辛さ」は「幸せ」の文字の上の横棒が一本消えている。普段あるものが暮らしてから一本消えるだけで辛い状況が生まれる。漢字は状況を良く表現しているものだ。

電気のない暮らしは、まず命の源となる水をポンプで引き上げること

が出来ない。炊飯や料理水、飲料水、風呂の水、トイレの流し水などが一齐にストップする。町内では、万が一の災害時に備え、役場、診療所など公共施設、地域のコミュニティ施設に発電機を装備していたし、地域の公園には手押しポンプを備えていた。そのため大きな混乱に至らず、対応できたと考えている。

本州から来町していたインターンシップの大学生は停電遭遇を体験したが、真つ暗な空の星が実に綺麗で流れ星も観察でき、経験したことがない夜空を見ることができたそうである。しかし私には上を見る余裕がなかった。

「備えあれば憂いなし」とよくいわれる。この停電が冬期間であったらどうだろうか。「ない」とは限らない。電気を使う暖房や給水が止まり、かつ燃料供給もストップ、となると…。災害時は自らが自らの命を守る準備をすることが必要であることは論を待たないが、高齢世帯など弱者世帯を含めて、避難施設での安全な暮らしの体制などを今から心掛けておかねばならない。『普段の暮らしの 幸せ』のために。

末ながく、お幸せに (一般書)



相手に幸せにしてもらうのではなく、相手を幸せにするのではなく、自分の幸せを自分で作り上げる。それができる者同士が結び合うこと。それが結婚というものだろう。私たち、本物の夫婦になれるかな？結婚式の招待客が主人公となり、花嫁たちとのエピソードを語る物語。結婚を越えて家族、親子の関係が描かれたもらい泣き必至の結婚小説。

そうだ、葉っぱを売ろう! (一般書)



男は朝っぱらから大酒をあおり、女は陰で他人をそしり日々を過ごすどん底の田舎町だった。しかし、今では70代、80代の婆ちゃんたちが2億6千万円の売上高を誇るビジネスを支える町に変貌した。20数年かけて成し遂げた命がけの蘇生術の全貌。この町でよそ者扱いされた青年が町民の大反発をかったことから始まった感動のストーリー。

貸し出し図書ビデオ紹介

せんとぴゅあII ほんの森

7月、せんとぴゅあIIに新図書室「ほんの森」がオープンしました。新図書室では本の貸し出しも始まりました。

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています
図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで15日間、DVDは一人2本まで8日間

ぼくたち、ロンリーハート・クラブ (児童書)



世の中には手紙が一つも来なくて話す相手もない「こどく」な人がたくさんいます。トールとなかまたちは、そんなさびしい思いをしている人たちのために「ロンリーハート・クラブ」をつくり活動をはじめました。ユーモアと子供の知恵と行動力がいきいきと描かれたスウェーデンのこころあたたまるストーリー。